

新規実施項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
 平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
 このたび、下記の検査項目を新たに受託開始いたしますので、
 ご利用いただきたくご案内いたします。
 当社におきましては皆様のご要望に幅広くお応えすべく研鑽を
 重ねてまいりますので、今後とも引き続きお引き立てのほ
 どよろしくお願い申し上げます。

敬白

記

■実施日 2017年4月3日(月) ご依頼分より

■新規項目内容一覧

項目 コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値 (単位)	備考
6551 4	IgG2	血清 0.5	↓ A00 (X)	冷蔵 (28日)	2~6	239 ※5	免疫比濁法	239~838 (mg/dL)	
6550 7	IgG4	血清 0.5	↓ A00 (X)	冷蔵 (21日)	2~4	388 ※5	ラテックス 免疫比濁法	4.5~117 (mg/dL)	

※5：免疫学的検査判断料

● IgG2

IgG2欠損症（欠乏症）の診断補助、免疫グロブリン製剤の投与時に有用な検査です。

IgG2は、細菌多糖類に対する抗体が多く、感染防御の重要な役割を担っています。

IgG2の欠損ならびに低下を示すIgG2サブクラス欠損症（欠乏症）は、原発性免疫不全症に含まれる易感染性の疾患です。肺炎球菌、インフルエンザ桿菌などによる中耳炎や肺炎を繰り返し、かつ重症化しやすい特徴があります。

IgG2サブクラス欠損症（欠乏症）治療の選択肢として、一部の免疫グロブリン製剤が適用となっており、血清IgG2値80mg/dL未満が継続していることが投与条件の1つとなっています。

▼疾患との関連

IgG2サブクラス欠損症（欠乏症）

▼関連する主な検査項目

IgGサブクラス分画

● IgG4

IgG4関連疾患の診断補助に有用な検査です。

IgG4が関連する全身性疾患として知られるIgG4関連疾患は、これまで独立して診断・治療されてきた自己免疫性膵炎やミクリッツ病などを包括した比較的新しい疾患概念であり、全身臓器の腫大や肥厚に加え、血清IgG4高値、病理組織学的に著しいIgG4形質細胞浸潤、線維化を認める原因不明の疾患と考えられています。

IgG4関連疾患の診断については「IgG4関連疾患包括診断基準」が示されており、「血液学的に高IgG4血症（135mg/dL以上）を認めること」と、記載されています。

▼疾患との関連

IgG4関連疾患

▼検査要項

検査項目名	IgG2	IgG4
項目コードNo.	6551 4	6550 7
検体量	血清 0.5 mL	
容器	→A00 (X) ポリスピッツ	
保存方法	冷蔵保存してください	
所要日数	2~6 日	2~4 日
検査方法	免疫比濁法	ラテックス免疫比濁法
基準値	239~838 (mg/dL)	4.5~117 (mg/dL)
検査実施料	239点 （「D014」自己抗体検査「25」）	388点 （「D014」自己抗体検査「32」）
判断料	144点（免疫学的検査）	
備考		

●参考文献

IgG2：久保 信彦，他：日本臨牀 68（増）：5~8，2010.

IgG4：岡崎 和一，他：日内会誌 101（3）：795~804，2012.